



J R 連 合 NEWS

JRに集う
すべての仲間の
JR連合への
総結集を!!

2022 年度

No. 44

2022年11月7日

日本鉄道労働組合連合会

連 合 2023 春 季 生 活 闘 争 中 央 討 論 集 会

定昇相当分含む5%程度の賃上げ目標を掲げた基本構想を確認

JR連合は、11月1日、東京都内で開催された連合2023春季生活闘争中央討論集会に出席した。なお、当日は会場に構成組織や地方連合会を代表して195名が参集し、オンラインでも360名の出席が確認された。



冒頭、連合の芳野友子会長は挨拶で、23闘争を取り巻く情勢等に触れ、「世界経済の景気後退が懸念される中、労働組合としてどのような未来を展望し、何をなすべきか、岐路に立たされている。連合は、基本構想で掲げる『人への投資』や『格差是正・分配構造の転換』にむけて、23闘争を力強く推進していく」と決意を述べた。さらに、ジェンダー平等の視点や集团的労使関係の重要性を訴え、「23闘争をこれまでの延長ではなく、歴史のターニングポイントと捉え、社会にうねりをつくるべく、連合は先頭に立って運動を牽引していく。一体となって闘おう!」と呼びかけた。

基調講演および委員会討議報告の後、事務局より基本構想が提起された。23闘争の意義や基本スタンス、基盤整備にむけた取り組み、賃上げの考え方に加え、「賃金要求指標パッケージ」として、各産業の「底上げ」「底支え」「格差是正」の取り組み強化を促す観点とすべての働く人の生活を持続的に維持・向上させる転換点とするマクロの観点から、『賃上げ分を3%程度、定昇相当分(賃金カーブ維持相当分)を含む賃上げを5%程度とすること』が示された。

闘争方針へJRの課題認識と働く者の想いを反映するべく発言

全体討論では、提起された基本構想を補強すべく、11産別より12名が各産業の現状や23闘争にむけた決意などを訴え、熱い議論を展開した。JR連合からは鎗光俊勝労働政策局長が発言に立ち、「コロナ禍で甚大な影響を受けた交通運輸・観光サービス産業は、依然として苦境に喘ぎ、回復には相応の期間を要する」と主張し、「雇用維持や立て直しに向けた政策・制度実現の取り組みを闘争方針に意識的に盛り込むこと」を強く求めた。また人財流出に対する強い危機感を訴えるとともに、「23闘争では、産業の現状を直視しながら、連合方針に準拠した闘いを構築していきたい。①賃金要求は、従来の支払い能力論に捉われず、産業の持続的成長に求められる『あるべき賃金水準』を目標に掲げ、バックキャストの思考で組み立てる、②多種多様な人財が活躍できる職場環境の創出にむけて、一步でも前進を図るべく、加盟組織とワンチームで取り組む」との決意を表明した。連合本部からは、産業の苦境に対する理解や、政策・制度実現の取り組み、情報交換・連携を図っていく旨の答弁を受けた。



なお、連合は本討論集会の議論を踏まえ、12月1日に開催される中央委員会にて闘争方針を決定することとしている。